

はぐくみの軸強化方針
令和3年度の検討状況

令和4年3月
札幌市

目次

はじめに

本資料の位置付け	3
令和3年度検討会での主な意見	3

1. 策定の背景、対象エリア、目的

1-1. 策定の背景	5
1-2. 歴史的背景	6
1-3. 対象エリア、策定の目的	7
1-4. 計画の位置づけ	8

2. 参考とすべきまちづくりの動向

2-1. 参考とすべきまちづくりの動向	11
---------------------	----

3. はぐくみの軸全体の将来像

3-1. まちづくりの理念等	19
3-2. はぐくみの軸全体の将来像	20

4. 大通沿道のまちづくりの方向性

4-1. ゾーン区分の設定	23
4-2. ゾーン毎のまちづくりの強化の考え方・将来像	24

5. 取組の進め方

5-1. 取組分野別施策展開の方向性	33
5-2. 次年度以降の進め方	34

資料編

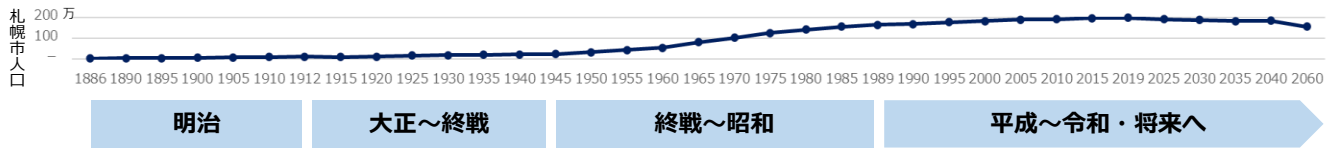
資料編-1. 既存の上位計画等	38
資料編-2. はぐくみの軸を取り巻く現状・課題	47
資料編-3. はぐくみの軸を取り巻く現状・課題（ゾーン毎）	67
資料編-4. 各検討会で頂いた意見	72
資料編-5. 検討会委員名簿	77

はじめに

1 策定の背景、対象エリア、目的

1-2 歴史的背景

札幌市の人口の変化



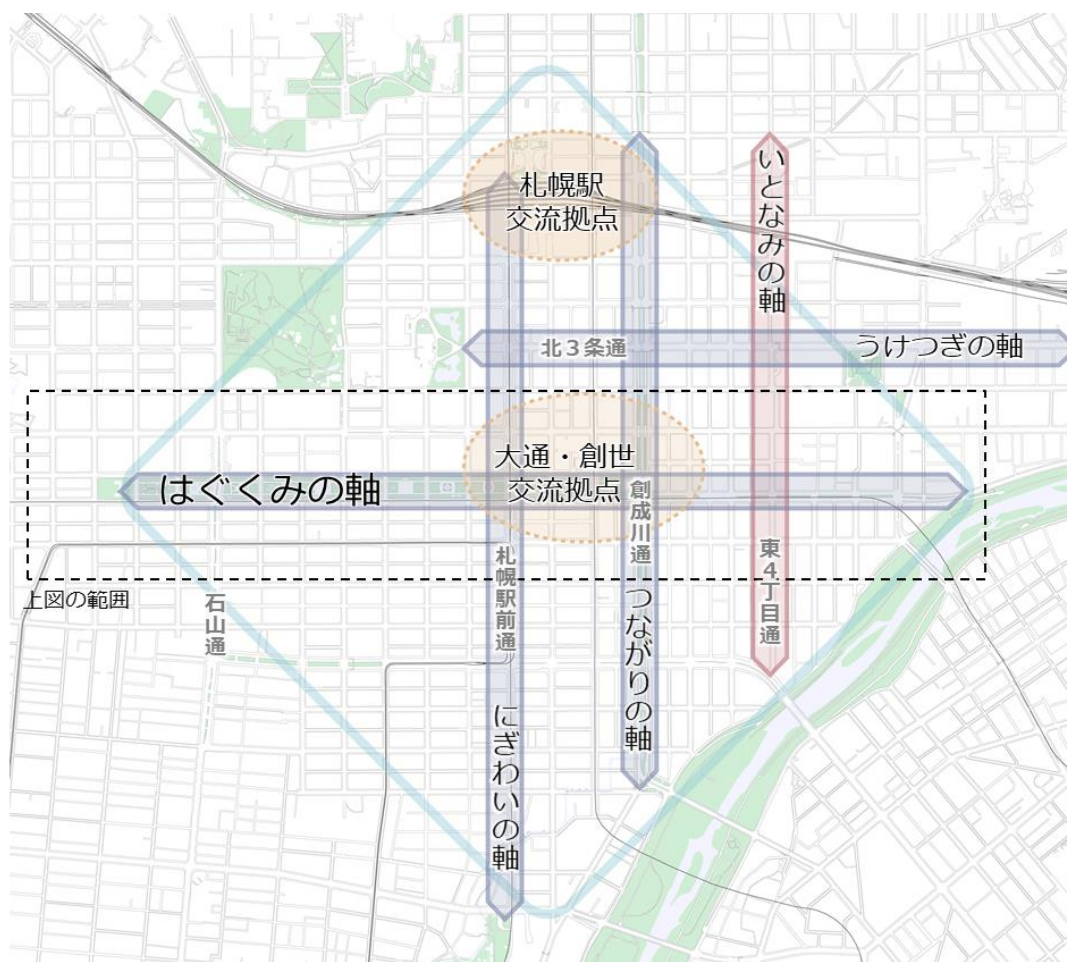
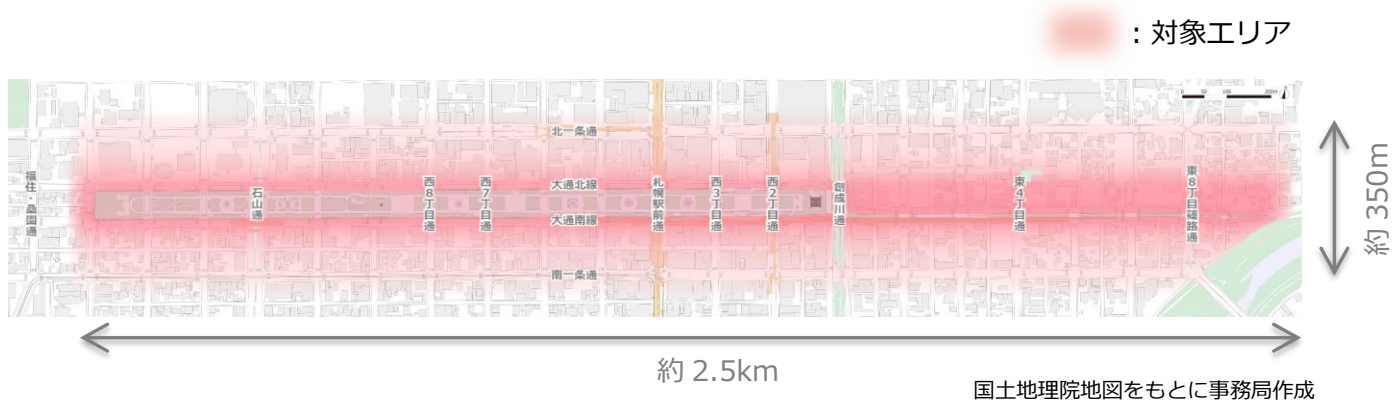
出典：札幌市「札幌市統計書」(R2)、DATA-SMART CITY SAPPORO「将来推計人口の推移」より

大通周辺の歴史の変遷

明治	<p>都市発展の起点となる公園・逍遙文化が生まれた</p> <p>主な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1871年(明治4年)大通設置 ・ 明治中期、公園としての整備が進む 	 <p>明治初期 出典：札幌市中央図書館デジタルライブラリー</p>	 <p>明治末頃の大通公園 出典：札幌市「札幌のまちとともに歩んだ公園」(H28) / 札幌市文化資料室</p>
大正〜終戦	<p>社会の近代化を背景に沿道では都市機能の集積が進んだ</p> <p>主な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1927年(昭和2年)市電開業 ・ 1926年(昭和15年)現在の札幌資料館である札幌控訴院が完成 	 <p>昭和12年頃の札幌市電 出典：札幌市公文書館所蔵</p>	 <p>完成当時の札幌控訴院(現：札幌資料館) 出典：札幌市中央図書館デジタルライブラリー</p>
終戦〜昭和	<p>人口の増加に伴い急速な都市基盤整備が進んだ</p> <p>主な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さっぽろ雪まつりやホワイトイルミネーション等大通のイベント利用が始まる ・ 1972年(昭和47年)札幌冬季五輪開催と同時期に地下鉄や地下街が整備 	 <p>第1回さっぽろ雪まつりの会場 出典：札幌市公文書館所蔵</p>	 <p>建設中の地下街(1971年10月撮影) 出典：札幌市公文書館所蔵</p>
平成〜令和・将来へ	<p>人口の減少が将来的に見込まれる中都市の成熟化が進展し、新たな局面へ</p> <p>主な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年(平成30年) さっぽろ創世スクエアしゅん工 ・ 2011年(平成23年)札幌駅前地下歩行空間開業 	 <p>さっぽろ創世スクエア 出典：(事務局撮影)</p>	 <p>札幌駅前地下歩行空間 出典：さっぽろ観光写真ライブラリー</p>

時代に合わせて姿を変えながら、札幌を支える基盤としての役割を果たしてきたレガシー

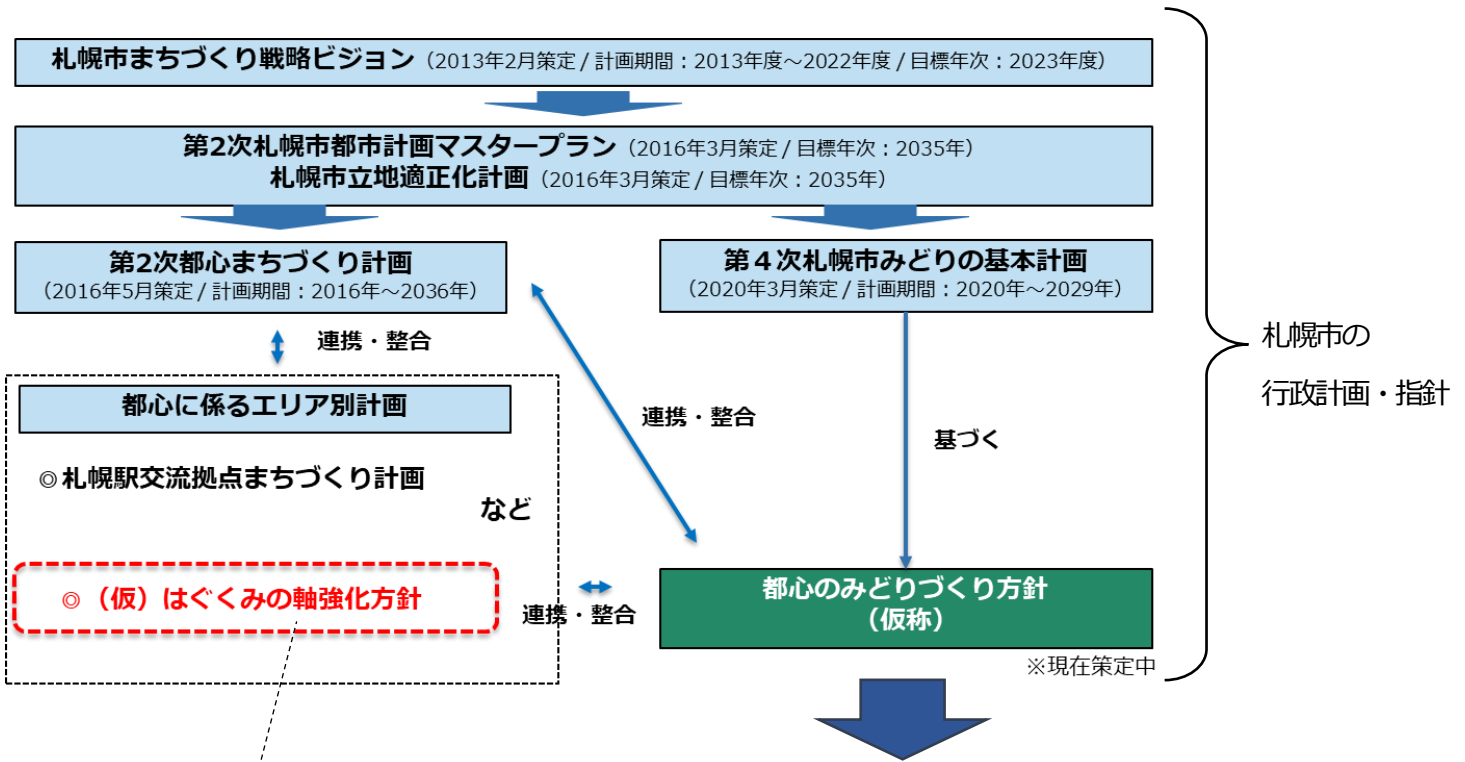
1-3 対象エリア・策定の目的



はぐくみの軸強化方針 策定の目的

- 都心の東西軸としての魅力を強化していくため、都市の開発気運の高まりに合わせて強化方針を策定し、大通公園などの地域特性を生かした沿道のまちづくりを促進していく。
- そして次の100年に向け、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続け、札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる札幌都心の実現に寄与することを目指す。

1-4 計画の位置づけ



【計画期間】
 (仮称) 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンが2040年代を見据えた内容とすること、また、第2次札幌市都市計画マスタープラン、札幌市立地適正化計画、第2次都心まちづくり計画が策定から概ね20年を目標年次・計画期間としていることを踏まえ、本方針の計画期間も策定から20年とする。

必要な都市計画決定(地区計画、再開発、都市施設整備)、地域別のまちづくりの取組(まちづくりガイドラインの策定など)、その他個別施策の展開

具体的取組

概略策定スケジュール (現時点の想定)

	令和3年度 (2021年度)							令和4年度 (2022年度)								令和5年度
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
(仮称) 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン	審議会での検討			ビジョン編答申				審議会での検討							戦略編答申	
(仮称) はぐくみの軸強化方針	検討会での検討				中間まとめ			検討会での検討				パブコメ実施			策定・公表	
都心のみどりづくり方針 (仮称)	検討委員会及び審議会での検討					素案とりまとめ		検討委員会及び審議会での検討					策定			

出典：札幌市「第2回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会資料」(R3)、「都心のみどりづくり方針(仮称)」(R3)、「第90回札幌市緑の審議会資料」(R3)

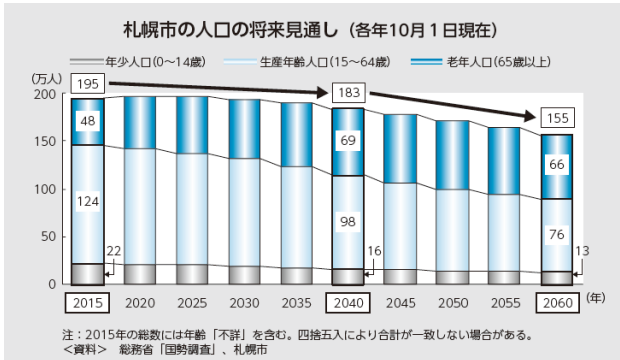
2 参考とすべきまちづくりの動向

2-1 参考とすべきまちづくりの動向

起こり始めている社会構造変化に対応すべく、
「人をひきつけ、住み続けたいくなる魅力」を都心で創出していく必要がある

① 社会構造変化に対応する社会づくりが求められている

札幌市としての人口減少への対応

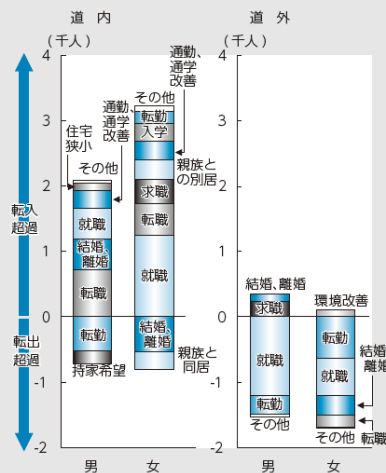


- 札幌市の将来人口の見通しでは、総人口の減少比率を **生産年齢人口の減少比率が上回っている**。

出典：札幌市「第2期さっぽろ未来創生プラン」(R2)

札幌からの市外転出

道内・道外、男女、移動理由別20~29歳の
転入超過数(2018年中)

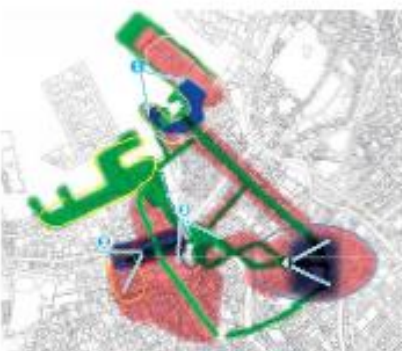


注：住民基本台帳による転入・転出者数（日本人のみ）と「札幌市人口移動実態調査」結果を用いて算出した推計値である。
<資料> 札幌市

- 札幌からの市外転出の状況を見ると、**20~29歳の若者は大幅な道外転出超過になっており、その主な理由は「就職」となっているため、「働き続けられる環境」を作ることが求められている**。
- 第2期さっぽろ未来創生プランにおいても、**「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」を目指している**。

出典：札幌市「第2期さっぽろ未来創生プラン」(R2)

参考とする動向：都市づくりによる人材獲得（福岡都心再生戦略）



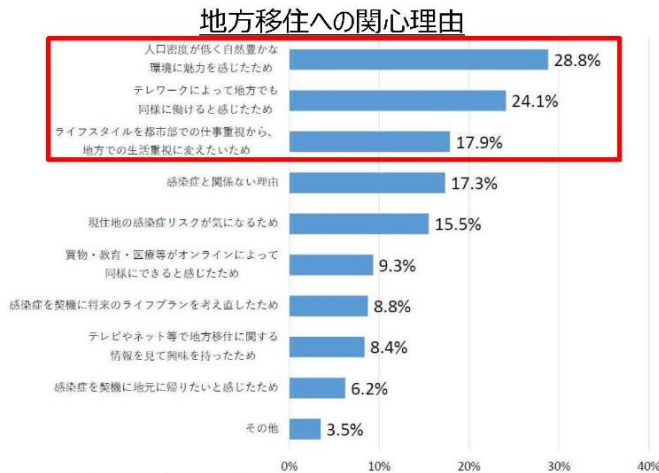
「支店経済からイノベーション経済へ」をテーマに、魅力的な公共空間やウォーターフロントの整備によって生まれた都市のアメニティが、高度な人材の定住と就業を引きつける施策を展開している。

3つの異なる経済的な個性(MICE、CREATIVE CVD^{※2}、GATEWAY CBD)が連携することで都心経済を拡大し、福岡都市圏、ひいては九州・日本の経済成長に波及している。

出典：福岡地域戦略推進協議会「福岡都心再生戦略」(H25)

② これからの「地方」の価値の在り方

地方移住への関心の高まり



- ・ニューノーマルに対応した働き方、暮らし方の定着から、これまでの「働く場所」に力点を置いた居住地選択から、「暮らしの質」に力点を置いた居住地選択に変化している兆しが見受けられる。

出典：国土交通省「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会（参考資料）」（R3）

③ 札幌市としての施策の方向性

STARTUP CITY SAPPORO プロジェクト



- ・札幌市では、産官学の連携による札幌市及び北海道のスタートアップ・エコシステムの構築を目的に、**STARTUP CITY SAPPORO プロジェクトを推進している。**

参考とする動向：スタートアップによる企業依存からの脱却（Maria01(ヘルシンキ)）

- ・企業に依存した経済構造からの転換を目指して、産官学による連携からスタートアップ文化を生み出してきたヘルシンキにおいて、昨今の中心的役割を担う施設の一つ。
- ・歴史ある病院を改築して作られており、地域や企業、学生など様々なコミュニティの交流によって新たなイノベーションやビジネスが生まれている。

多様化するライフスタイルやニーズに対応した
開発の誘導や都市空間の活用が求められる

① 現在の札幌市の都心の開発誘導の方向性



- 札幌市では「S・M・I・L・Es City Sapporo」をテーマとし、「都心の開発誘導方針」にて開発事業に求める方向性を示している。
- 今後も社会構造の変化に合わせた開発の誘導が必要。

出典：札幌市「都心の開発誘導方針」（H31.4 改定）

参考とする動向：国内での不動産投資の変化の兆し

- 民間不動産開発においても、「CASBEE スマートウェルネスオフィス認証」ならびに「DBJ Green Building 認証」の最高位評価を獲得し、開発のブランディングにつなげている。例：東京ミッドタウン日比谷（三井不動産）
- 不動産運用における投資判断基準として、環境・社会への配慮を評価する認証制度(DBJ、Green Building、CASBEE、LEED)等の認証の取得を挙げ、ESG投資の取組みを加速させている企業がある。例：第一生命

参考とする動向：海外における都市開発のスタンダード

- ロンドンで行われた「22 Bishopsgate」開発では、個人の幸福を念頭に置いて設計され、仕事の経験をより楽しく効果的にするアメニティを追加することにより、ワーカーの生活の質に着目した施設環境整備が行われている。
- 新たな人材の獲得に向けて、オフィス環境に求められる価値もウェルネス/環境配慮/ミクストユースなど多様化していることを象徴している。

② これからの働く環境としての大通沿道の強み

働く環境における「屋外空間」の価値

- コロナ禍における「働く環境」に関するアンケートの多くが、**屋外空間の価値向上**が、ワーカーの求めている環境であることを指摘している。
- 大通沿道においては、大通公園をはじめとしたパブリックスペースの価値を高めていくことが、「屋外空間」の価値向上につながる。

参考とする動向：官民連携によるオープンスペース創出の取組み



- 東京都、大阪市・横浜市・広島市・福岡市などでも、エリアマネジメント団体による公開空地部分の活用を促進し、まちの賑わい形成を図ることを目指している。

出典：国土交通省「民間空地等の多様な利活用に関する事例集」（R2）

参考とする動向：緑を取り込んだスペースの創出

- 再開発において、法令等で求められる基準にとどまらず、事業コンセプトの柱として位置づけ、ブランディングの一環として環境整備を行う事業が見受けられる。

居心地が良く歩きたくなるまちとして、
ウォーカブルな都市づくりが求められる

① ウォーカブルな都市づくりが全国で始まっている



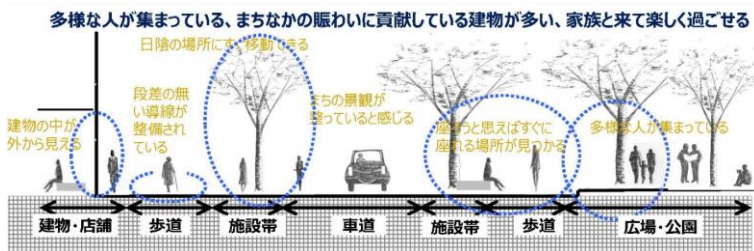
・国土交通省では、「地域課題の解決と新たな価値の創造のため、多様な人々が集まり、交流を促進させることが不可欠」として、人々が居心地が良く歩きたくなるまちなかがづくりを進めている。

出典：国土交通省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会中間とりまとめ」(R1)

参考とする動向：徒歩15～20分の距離への都市機能の集積

- ・パリは「15分都市圏構想」を打ち出し、2024年までに誰もが車に乗らずに15分で仕事、学校、買い物、公園、そしてあらゆる街の機能にアクセスできる都市を目指すと言った。
- ・同様にポートランド、メルボルン、その他周辺地域でも「20分の近隣」という考え方が導入されている。これは「20分は、人々が地元の日常のニーズを満たすために進んで歩くことができる最大時間」という調査結果に基づいている。

② 居心地の良いまちなかの創出に向けた取り組み



出典：国土交通省「まちなかの居心地の良さを測る指標(案)」(R2)

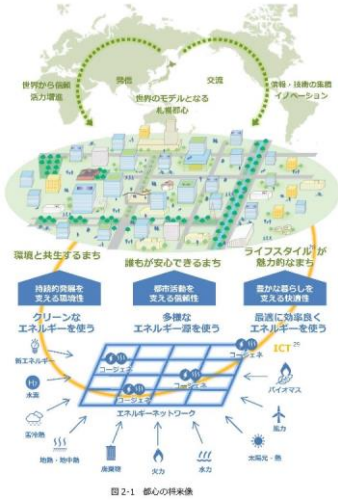
・左記提言を受けて、『「ハード環境」を改善しながら、そこに滞在する人々の「空間の快適性・魅力」に対する感じ方を向上させ、その結果として「人々の行動が多様」なものになる。』という流れで、まちなかの状況を総合的に把握する視点の整理が試みられている。

参考とする動向：沿道の活力を生み出す道路空間への転換

- ・ニューヨーク市運輸局（市内交通の管理者）が2012年に公表した実証実験では、低未利用の沿道駐車場を歩行者利用空間（ベンチ、イベントなど）に活用したところ、沿道の商店で172%売り上げの向上が見られた。
- ・上記調査を受け「シティベンチ」プロジェクトを開始し、市内に2000か所を超えるベンチを設置し、ウォーカブル空間の創出に努めている。

大通公園をはじめとしたみどりの価値を再定義し、
都心のブランディングを図っていく必要がある

③ 環境首都・札幌



- 札幌市では、札幌市の自然環境や緑豊かな街並みなど、恵まれた環境をより良いものとし、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくことを目的として、「環境首都・札幌」を2008年に宣言した。
- また、「第2次札幌市環境基本計画」では、SDGsの視点である多様な主体との連携や、環境のみならず多分野での成果も同時に得られる取組を進めていくこととしている。
- さらには、「都心エネルギーマスタープラン」では、「低炭素」「強靱」「快適・健康」を取組の基本方針として掲げている。

出典：札幌市「都心エネルギーマスタープラン」(H30)

参考とする動向：都市づくりと連動した脱炭素化

- コペンハーゲンでは、環境都市としての目標像の達成に向けて、自転車利用の促進を施策として掲げているなど、エネルギー施策に留まらない、都市政策総体での環境負荷低減を目指している。
- その一つとして、自転車レーンの促進整備などに取り組む一方、ICTの活用などによって時間帯によってバスレーンを自転車レーンに転用するなど、柔軟な道路空間の利活用を目指している。

④ 札幌市において考慮すべきリスク



出典：札幌市 HP



【想定】豊平川(下流)総雨量406mm/72時間

色凡例 (想定される浸水深)	
濃い赤色	: 10m以上
赤色	: 5m~10m未満
オレンジ色	: 3m~5m未満
黄色	: 0.5m~3m未満
薄い黄色	: 0.5m未満

出典：札幌市「洪水ハザードマップ」(R1)

- 札幌市では、平成30年に発生した北海道胆振東部地震において大規模停電による「ブラックアウト」を経験しており、また、都心部は豊平川が洪水となった場合の浸水想定区域に位置していることから、都心のさらなる強靱化を図っていく必要がある。

参考とする動向：公園と連携した都市ブランディングとしての強靱化

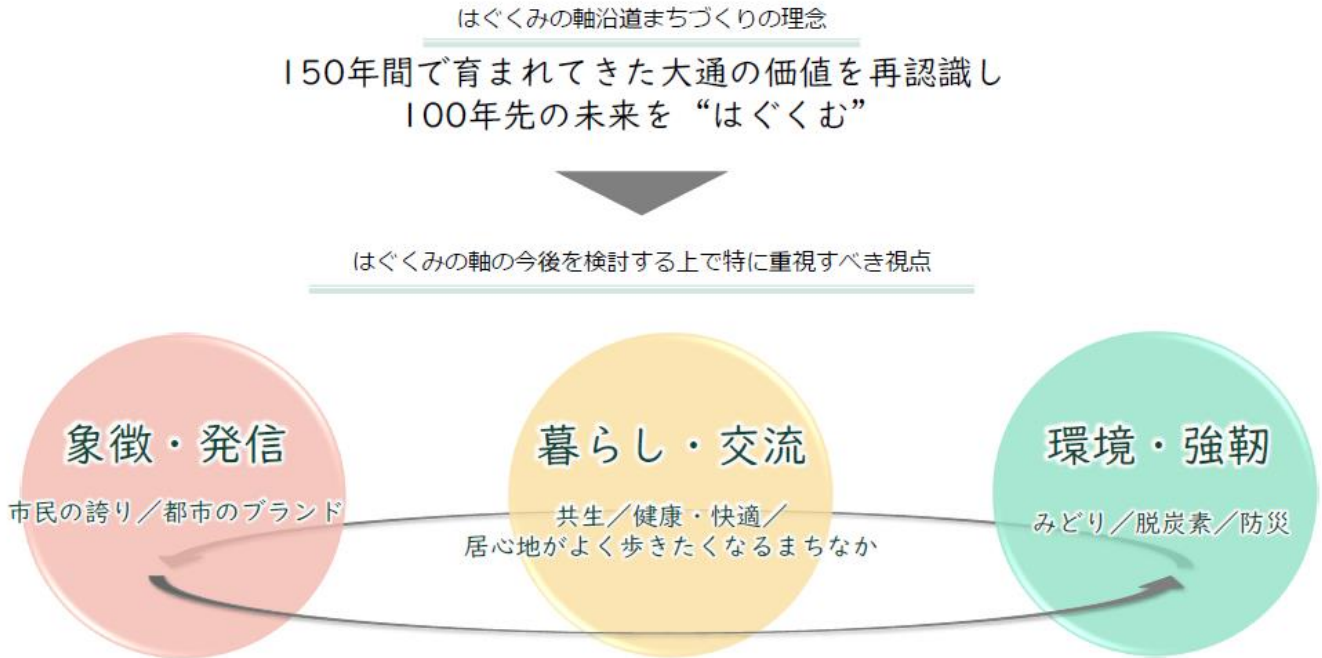
- 住環境整備の進む東京都豊島区池袋エリアでは、新たに整備した公園「イケ・サンパーク」が「防災機能」を持つことで、地域のレジリエンスを高める役割を担っている。
- 防災上必要となるスペースを日常時にはイベント等で活用することや、100%再生可能電源を活用するなど、都市のブランディングに多面的に活用されている。

3 はぐくみの軸全体の将来像

3-1 まちづくりの理念等

歴史的背景や参考とすべきまちづくりの動向、現状や課題[※]等を踏まえ、はぐくみの軸沿道まちづくりの理念、はぐくみの軸の今後を検討する上で特に重視すべき視点、はぐくみの軸全体の将来像を設定した。

※現状や課題は資料編参照



3-2 はぐくみの軸全体の将来像

- 

1 都心の象徴性が継承され
札幌のまちづくりを支える軸として
新しい都市文化・魅力・活力を
生み出し続けている
- 

2 大通と沿道が一体となった
札幌を象徴する
都市空間と景観が形成され
札幌のブランド力向上をけん引し
世界から投資と人材を呼び込んでいる
- 

3 大通公園や沿道の公共的空間などが
全ての人々にとって居心地の良い場として愛され
そこでの憩いと交流が
北海道・札幌の魅力的なライフスタイルとして
国内外に発信されている
- 

4 交通結節性の高さを活かし
時代に適応した交通手段と歩行者が
共存できる空間が形成され
移動の利便性と歩きたくなる楽しさが
両立している
- 

5 豊かで高質なみどりが
途切れることなく展開されるとともに
都心の脱炭素化に向けた取組や
災害対策が進められ
うるおいがあり強靱な軸が形成されている
- 

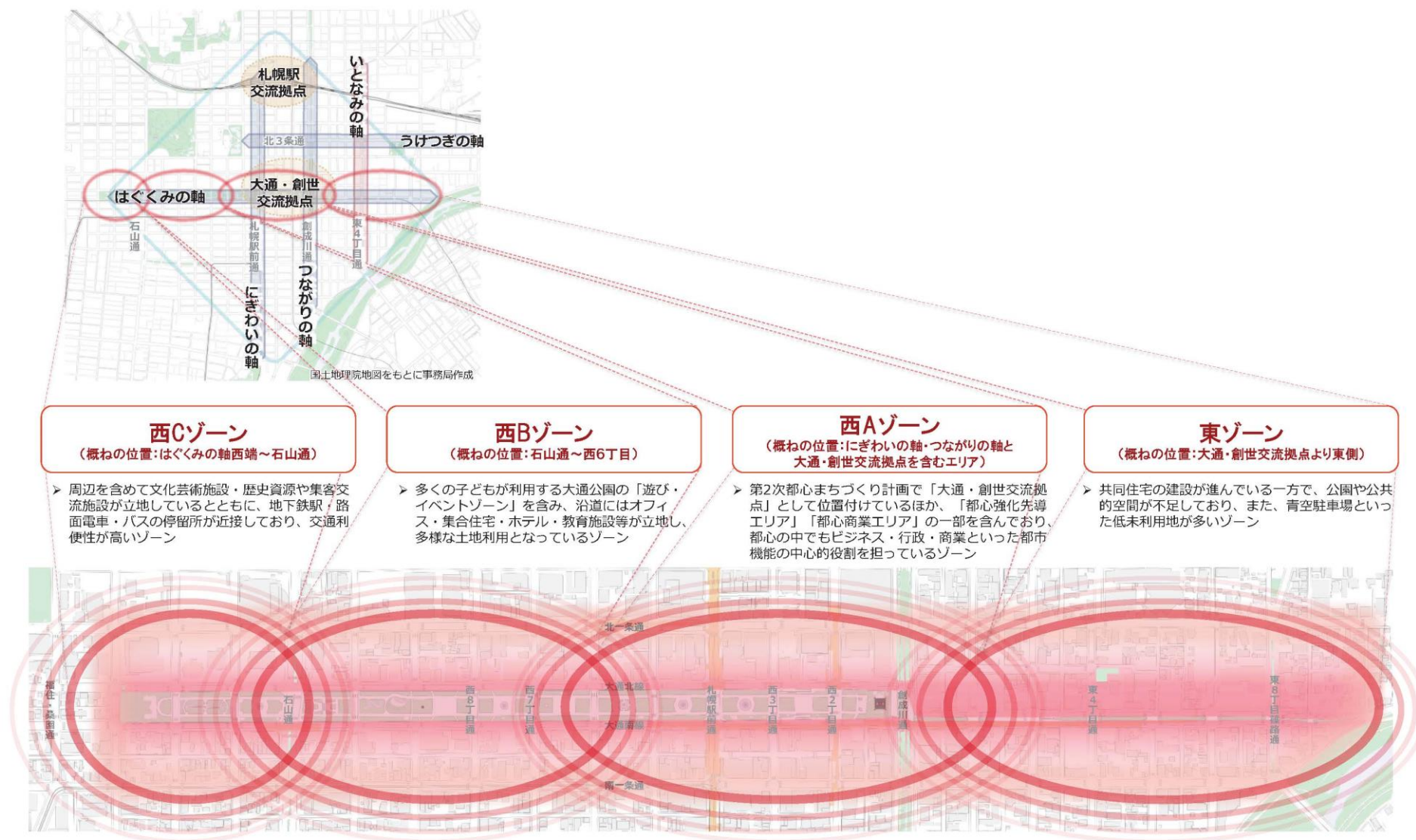
6 実験的な取組や市民・企業・行政などの
多様な主体の連携を通じて
時代の流れに柔軟に対応した
まちづくりが進められている

4 大通沿道のまちづくりの方向性

4. 大通沿道のまちづくりの方向性

4-1 ゾーン区分の設定

- ・課題整理や将来像の在り方を検討するため、現状の沿道施設の立地状況や第2次都心まちづくり計画の考え方などから、ゾーン分けを行った
- ・ゾーンごとの特徴を踏まえながら、それぞれの魅力を高めていくことで相乗効果を生み出し、はぐくみの軸全体の価値を向上させていく



4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ 強化の考え方 (案)

育んできた価値と新しい価値が融合した
世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ

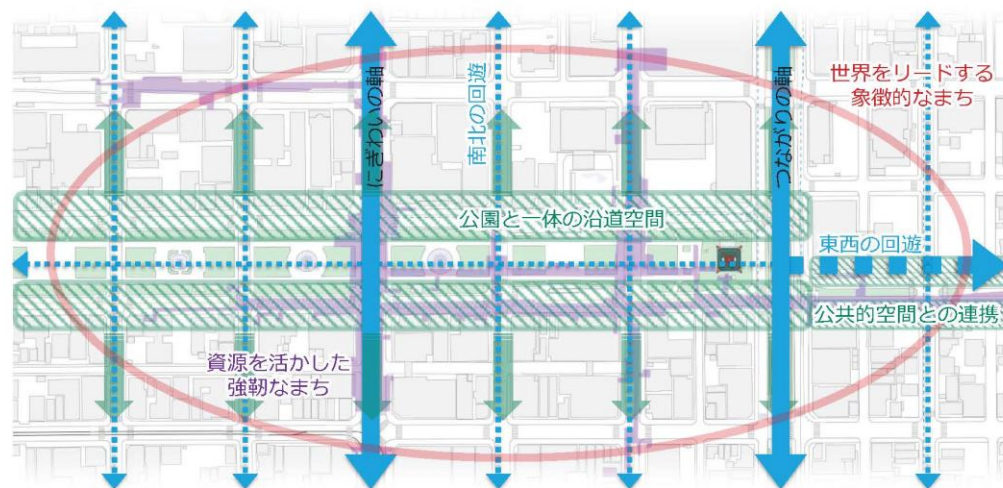
■ ゾーンの将来像 (案)

【象徴性・拠点性】

沿道での高度な土地利用と都心の脱炭素化や強靱化に向けた先進的な取組、多様な機能の集積や複合化等を通じて、**札幌発の創造的ビジネスや魅力的なライフスタイルを世界に向けて発信する価値創造の拠点が、官民の連携により形成され、訪れた人々がその価値を体感している。**

【沿道の賑わい、公園との一体性】

沿道での機能更新に際して、大通に面して道路・公園空間や公共的空間との連携を促す賑わいや、大通公園の四季の潤いを感じる機能が導入され、**公園が周辺のまちと立体的につながる空間が形成されるとともに、沿道からさらに南北への賑わいのつながりが構築されている。**



【回遊性、公共的空間の連携】

歩行者にやさしい交通環境が整備され、**大通公園を起点としたまちの南北、および創成川を横断したまちの東西の回遊性を支える中心的なゾーンとなっている**

【防災性、脱炭素、強靱性】

大通公園や地下街等といった資源を活かした防災性の向上とあわせ、沿道建物において脱炭素化や強靱化につながる機能導入が進み、**環境にやさしく強靱で持続可能なまちづくりを先導するゾーンになっている。**

※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

【○：強み ▲：弱み】

【象徴性・拠点性】 土地利用 マネジメント みどり・公園

- 札幌文化芸術劇場hitaruや札幌大通地下ギャラリー500m美術館など芸術・文化の拠点が立地している
- テレビ塔、札幌時計台など札幌を象徴する景観資源が立地しているほか、噴水が大通公園の各街区を特徴づけている
- 北海道内各所と繋がるバスターミナル機能や市内各地への交通アクセスが充実している
- ▲ 札幌駅前の商業集積や郊外大型商業施設の増加に伴い、市民のニーズが変化している
- ▲ 築年数の経過した大規模ビルが多く、今後の機能の見直しを行っていく必要がある
- ▲ 大規模な都市機能更新といった投資を呼び込むための国際競争力強化に向けた方針が不足している
- ▲ 札幌を象徴する歴史資源として時計台が立地しているが、大通公園側とのつながりが弱い

【回遊性、公共的空間の連携】 交通 土地利用

- 地下鉄駅や路面電車・バスの停留場が近接しており、交通節点になっている
- 地下歩行空間、地下街等が展開し、地下の回遊性を有する空間となっている
- 創成川通アンダーパス連続化事業に伴い創成川公園や創成川の東西市街地を繋ぐ道路が整備され、創成川以西から以東への人の流れを創出する基盤が形成されている
- ▲ 西側から繋がっている公園は創成川までで途切れており、創成川以東への連続性が途切れている
- ▲ 沿道から南北へ展開する回遊性が不足している

【沿道の賑わい、公園との一体性】

みどり・公園 景観 土地利用

- 地区計画や地域が主体となって策定したまちづくりガイドラインにより土地利用等の方針が示され、今後の機能更新が期待される街区がある
- ▲ 沿道と公園の一体感に欠け、低層部での沿道と公園の賑わいの連続が不足している
- ▲ 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建築物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある
- ▲ 路上駐車がが多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている

【防災性、脱炭素、強靱性】

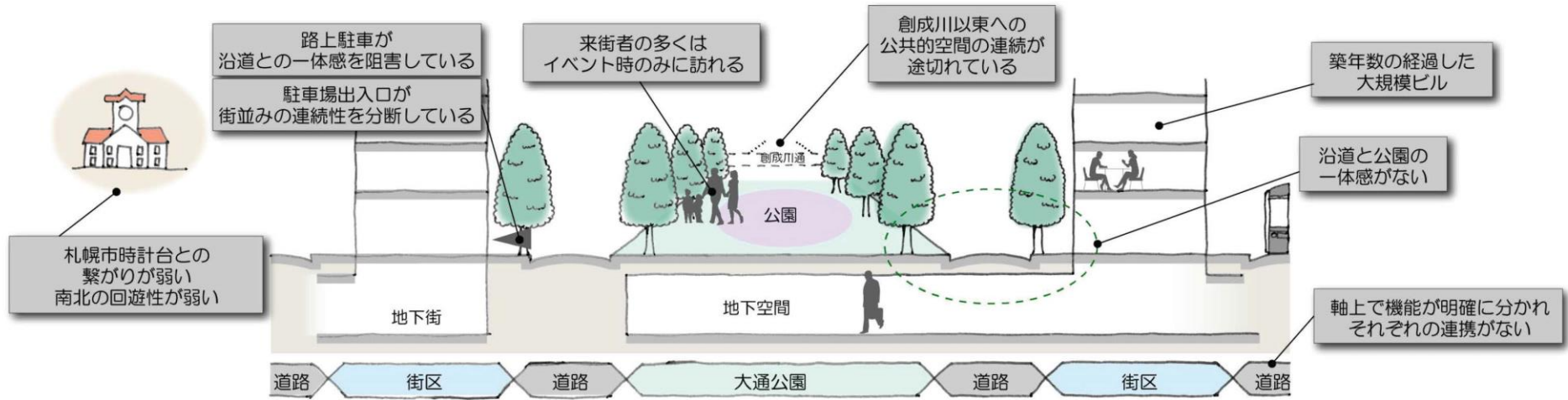
エネ・強靱・防災 みどり・公園

- 一時避難場所としての大通公園や一時滞在施設としての地下歩行空間等がある
- 面的なエネルギーネットワークの整備が進められている
- ▲ エネルギーネットワークを、沿道建物へさらに拡充していく必要がある

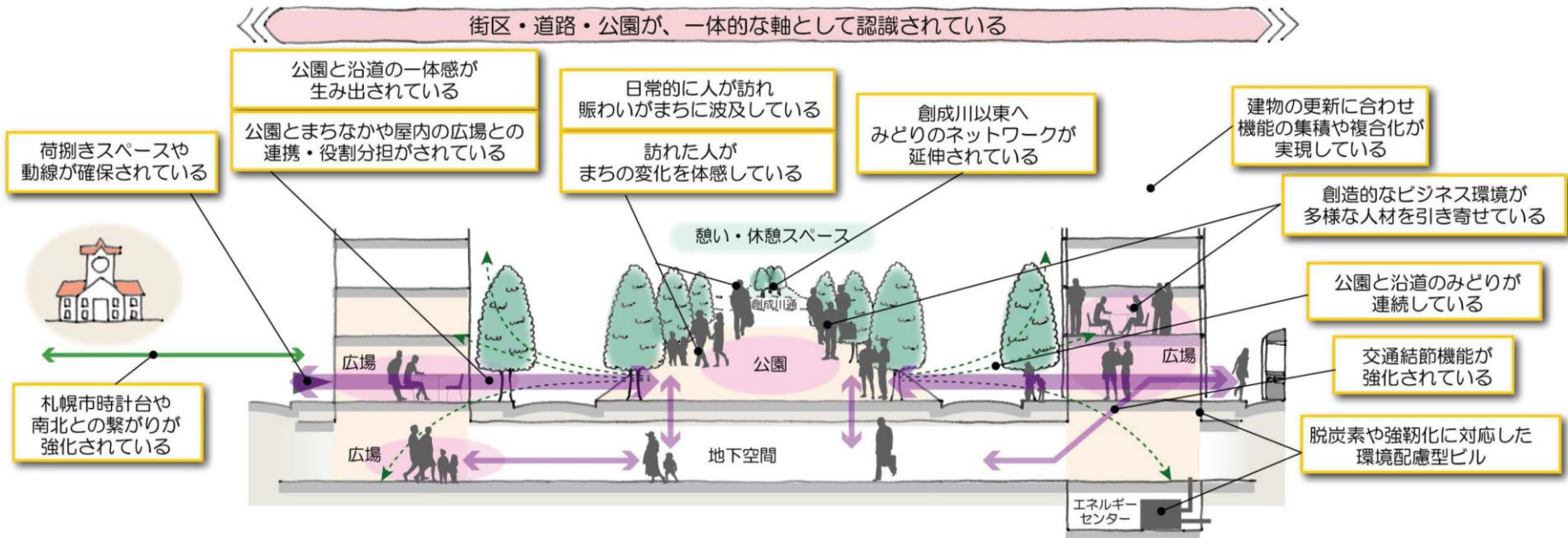
4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ



4. 大通沿道のまちづくりの方向性

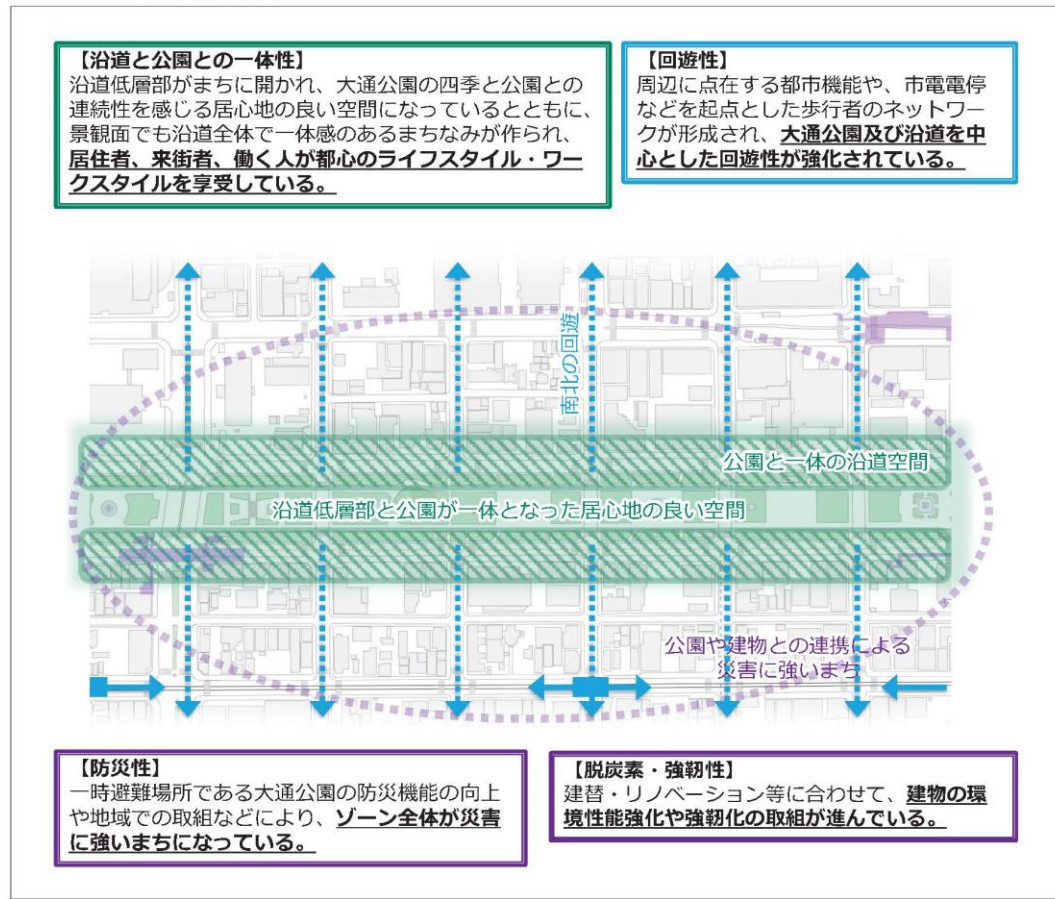
4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ 強化の考え方 (案)

居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う
都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ

■ ゾーンの将来像 (案)



※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

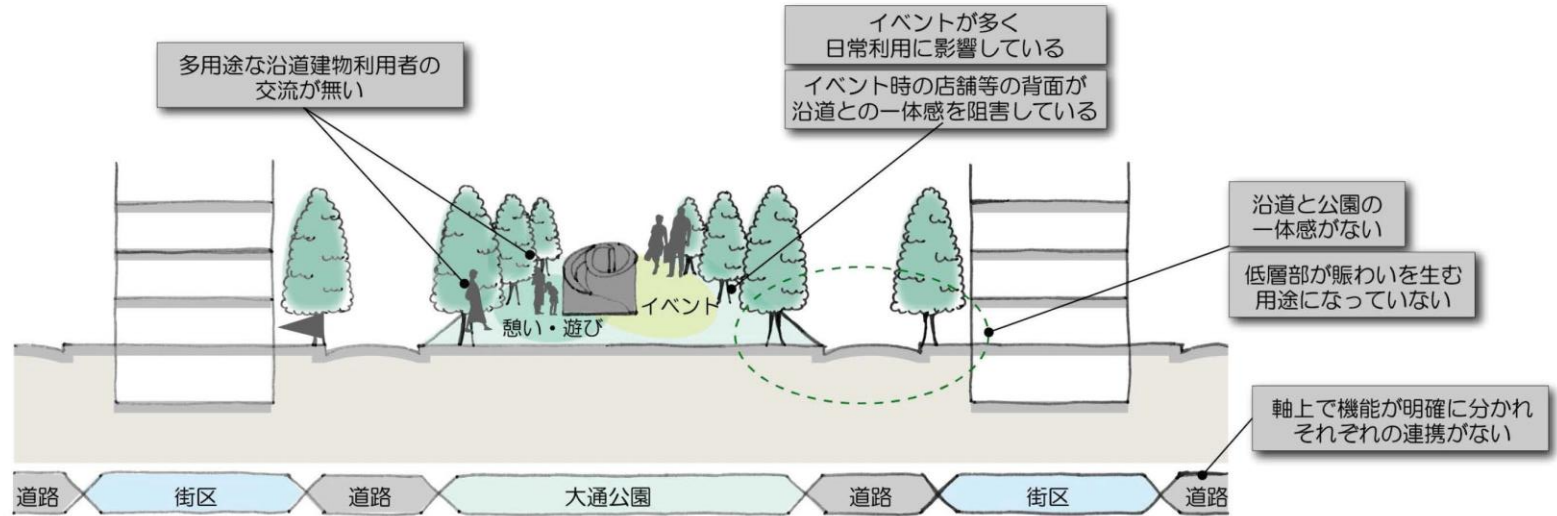
【○：強み ▲：弱み】

- 【沿道と公園の一体性】**
 土地利用 マネジメント みどり・公園 景観
- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、都心居住の受け皿となっている
 - 「遊び・イベントゾーン」では、子供連れや学生といった若い世代が集まり交流するスペースが生まれている
 - 大通公園西8丁目、雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなどの大規模イベント時のメイン会場として活用され、イベントスペースとして機能している
 - 野外ステージは音楽イベントなどで活用され、文化・芸術機能の核として期待される
 - ▲ 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、大通公園が、憩いと遊びの場として活用できる期間が十分ではない
 - ▲ イベント時には、イベント非利用者に対する動線の対応が課題となっている
 - ▲ 沿道低層部の機能が、公園内の機能と連携しておらず、公園とまちの一体感が感じられない
 - ▲ 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建築物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある
 - ▲ 沿道建物の低層部は賑わい醸成に資する用途となっていない
 - ▲ イベント時には、イベント建屋背面により、大通公園と沿道のつながりが薄れる
 - ▲ 路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている
- 【回遊性】**
 交通 みどり・公園
- 市電の電停が複数面しており、大通から南側のエリアとの接続の起点となっている
 - 北側には道庁赤レンガ庁舎、北大植物園といった象徴的な都市機能が位置している
 - ▲ 東西線西11丁目駅～大通駅間の約750mの区間で地下での接続が無い
- 【防災性】**
 エネ・強靱・防災 みどり・公園
- 大通公園が一時避難場所として指定されている
 - ▲ 沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別の建替え・利用継続が今後も見込まれ、防災への対応にはビル間での連携した取組が必要
- 【脱炭素・強靱性】**
 エネ・強靱・防災
- ▲ 沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別の建替え・利用継続が今後も見込まれる。

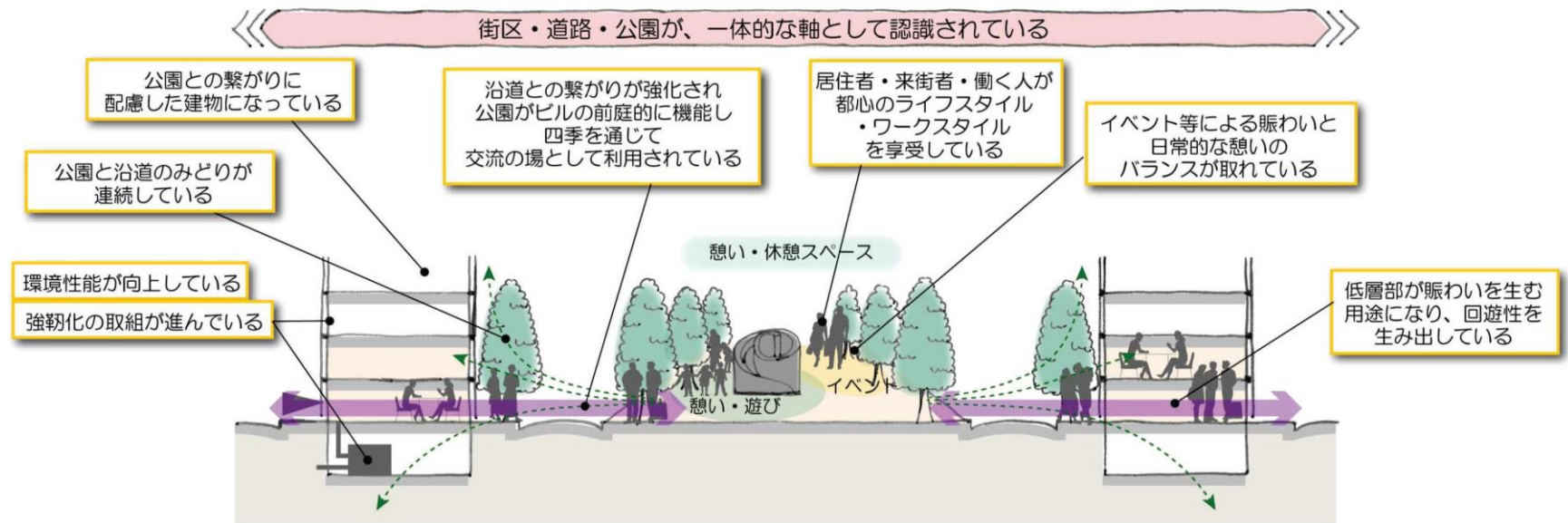
4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ





■ 強化の考え方 (案)

都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ

■ ゾーンの将来像 (案)

【多様な土地利用、多様な都市機能】
 大通沿道周辺の多様な規模のビルが様々なニーズに対応した創造的活動の受け皿となり、交流が活性化している。また、それらのビルが機能や設備の更新時に併せてエネルギー消費等に配慮した建替え・リノベーション等を通じて生まれ変わることで、建物の価値を高めている。

【都心西側の回遊拠点】
 国の重要文化財である札幌市資料館や周辺に立地する知事公館・北大植物園等、周辺とのみどり・公園のネットワークが形成され、これらを活かした回遊性の向上・人材の交流や、高い交通利便性を活かした集客機能の集積などにより、**都心西側の交流・回遊拠点**となっている。

【歴史と文化が漂う風格ある景観】
 札幌市資料館とサンクガーデンが一体となった歴史と文化が漂う空間となり、さらには沿道でも市民交流を生み出す芸術的活動の展開や、緑化の推進、公共的空間の活用が図られ、**都心西側を象徴する風格のある景観が形成**されている。

【防災性・脱炭素・強靭性】
 敷地規模の大きな用地における建替え・リノベーション等に際して、周辺の用途の多様性を活かした**エリア単位でのBCPと建物の環境性能強化、強靭化の取組が進んでいる。**

多様な土地利用
 周辺と連携した交流・回遊
 沿道と公園が連続した象徴的な景観
 エリア単位でのBCPや環境負荷低減への対応
 多様な土地利用

※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

【○：強み ▲：弱み】

【多様な土地利用、多様な都市機能】
土地利用
 ○ 多様な用途の建物が集積し、敷地規模も大小様々であり、多様な都市機能を受け止める土台が構築されている
 ○ 大通公園の南北においてもそれぞれ違う特色をもつ都市機能が集積している
 ▲ 地域主体のまちづくりなど、一体感をもったまちづくりの動向が無い。
 ▲ 沿道建物の低層部は、賑わい醸成に資する用途となっていない
 ▲ 建物規模が大きく、業務・宿泊など多様な機能集積が見られるが、エネルギー利用の効率化に係る方針がない

【都心西側の回遊拠点】
交通 みどり・公園 土地利用
 ○ 中央区役所などの公共施設、文化芸術施設、札幌市資料館などの歴史的建造物・景観資源のほか、集客交流施設が複数立地している
 ○ 知事公館や北海道立近代美術館などの緑のかたまりに近接している
 ○ 地下鉄駅、路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高い
 ▲ 大規模な公有地が公園に面して立地しているが、駐車場利用等により公園とまちの一体感が薄い

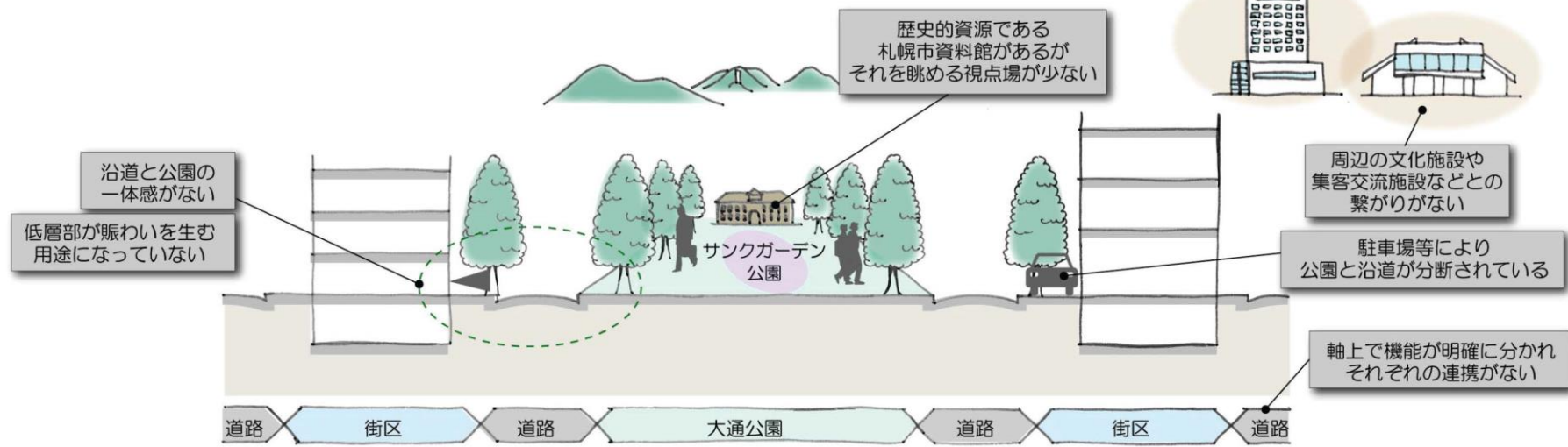
【歴史と文化が漂う風格ある景観】
景観 みどり・公園 土地利用
 ○ 札幌市資料館の前にはサンクガーデンが広がる美しい空間があり、都心西側へのさらなる人の呼び込みが期待される
 ▲ 札幌市資料館を眺める視点場が少ない

【防災性・脱炭素・強靭性】
エネ・強靭・防災 マネジメント
 ▲ 北海道／札幌の重要な公共拠点施設が立地しており高い防災性が求められるが、エリアとしてのBCP対策はない

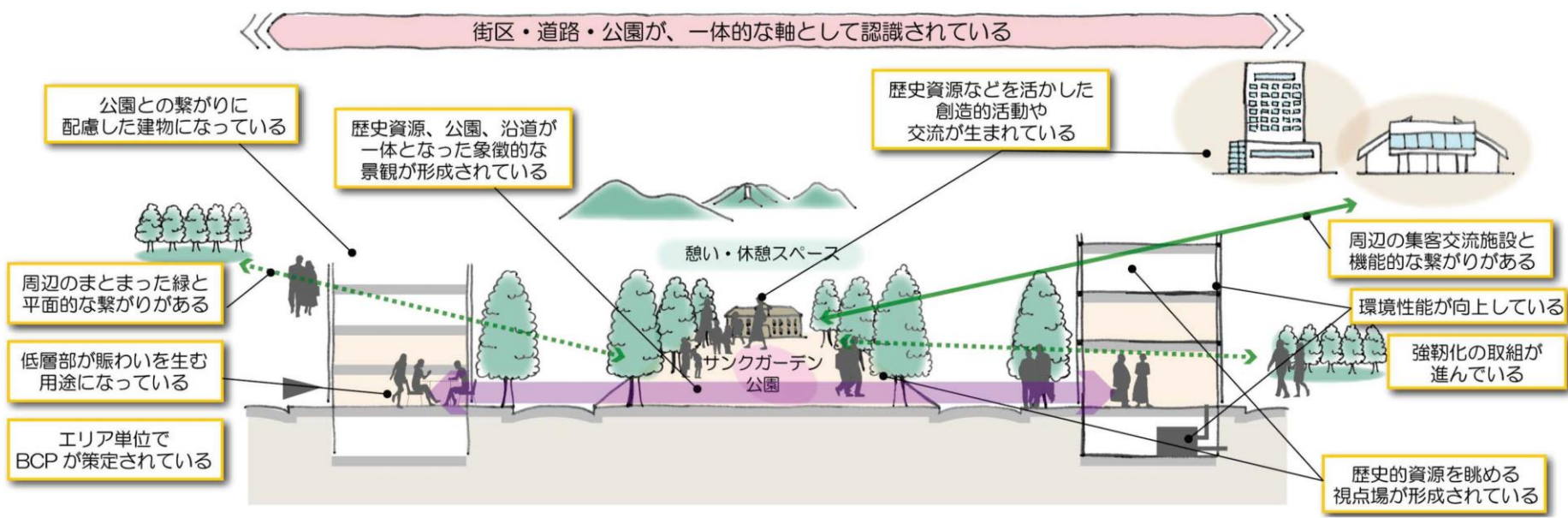
4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ



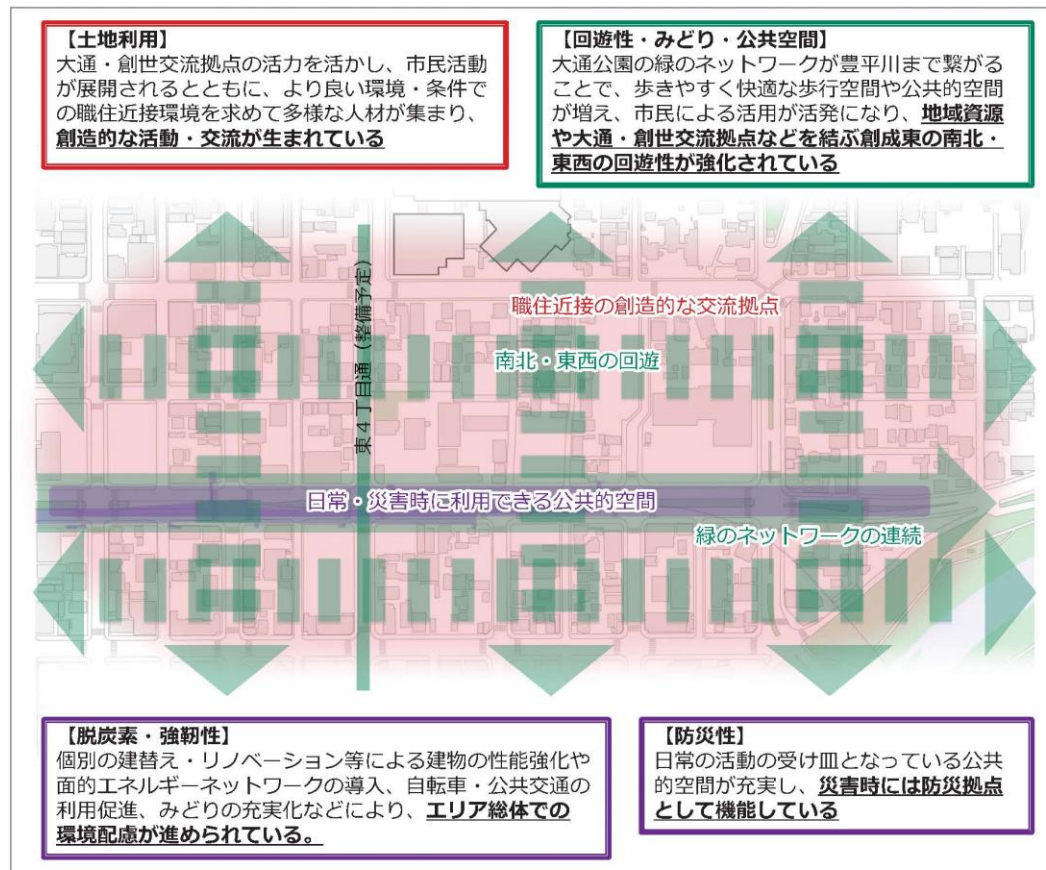
4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



➤ 強化の考え方 (案)

創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした
創造性豊かな職・住環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ

■ ゾーンの将来像 (案)



※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

○：強み ▲：弱み

【土地利用】

土地利用

- 低未利用地が多く今後の土地利用転換が期待される
- 創成川西側と比較して地価水準が低く、賃料負担力に捕らわれない機能導入が可能である
- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、都心居住の受け皿となっている

【回遊性・みどり・公共空間】

みどり・公園 交通 土地利用 マネジメント 景観

- 地下鉄コンコースが大通東5丁目まで伸びている
- 東4丁目通の整備により、地域内の南北の歩行環境の向上が図られる予定である
- サッポロファクトリーや二条市場などの地域資源がある
- 民間団体や行政により、イベント開催や実証実験など、公共空間を活用し、まちの魅力・活力を高めていく試みがなされている
- 豊平川において、河川区域の利活用を目指した取組が進められている
- ▲ 駐車場の出入口が沿道に多数存在している
- ▲ 青空平面駐車場などが多い一方で公園が少なく、公共的空間や緑が不足している
- ▲ 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、遊びに利用できるスペースが充分ではない
- ▲ 近接する歴史資源を活かすなど、景観的な視点からも方向性を位置付けることが望まれる

【脱炭素・強靱性】

エネ・強靱・防災

- 都心エネルギープランで、小規模な建物を含めて都心にふさわしい先進的な取組により低炭素化を推進するエリアとして位置づけられている
- 都心エネルギープランで、熱供給ネットワーク促進エリアとして、将来的に面的なエネルギーネットワークを構築するエリアとして位置づけられている

【防災】

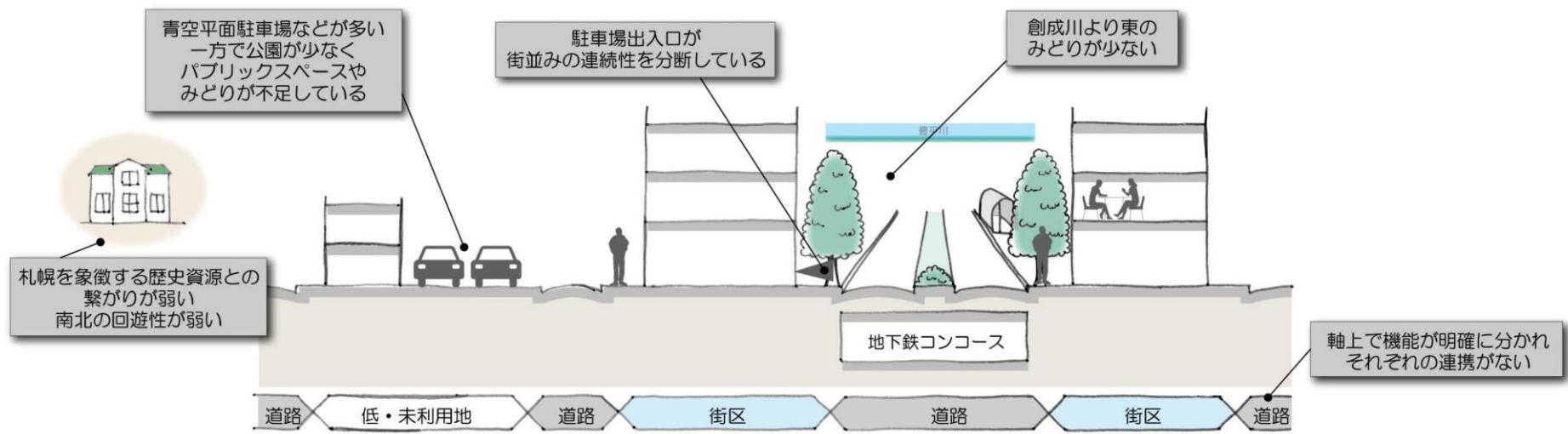
エネ・強靱・防災

- 中央小学校が基幹指定避難場所となっている
- ▲ 安全確保計画に定められている一時滞在施設等がバスセンター前駅の地下鉄コンコースのみである

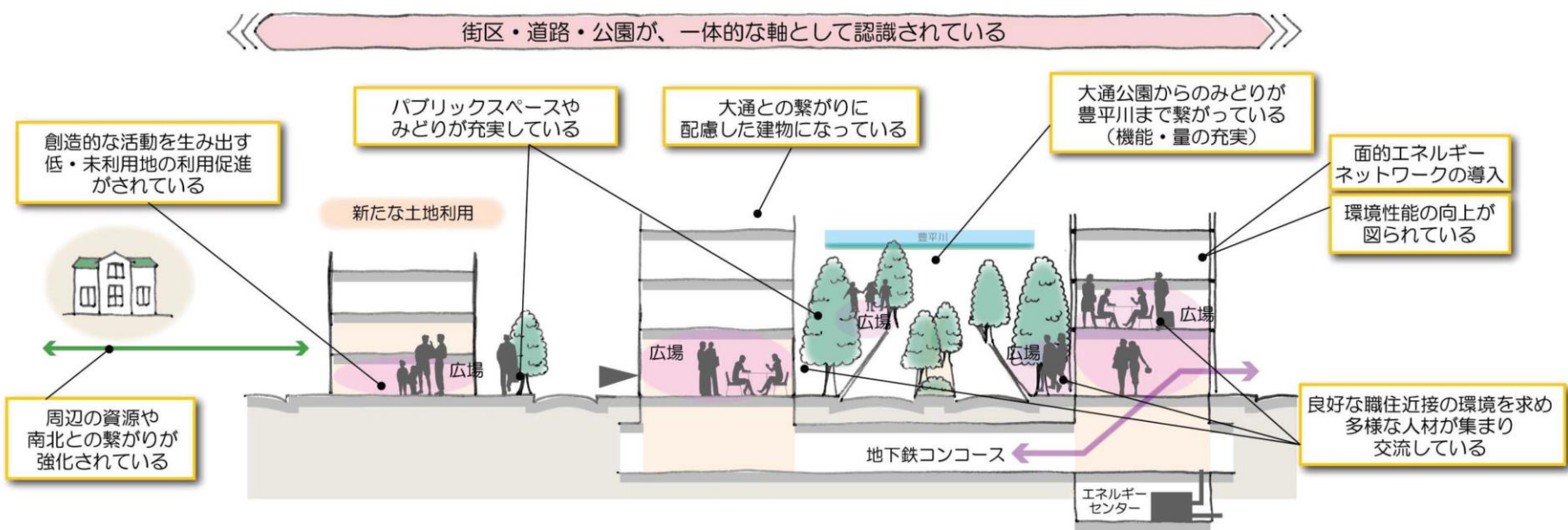
4-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ



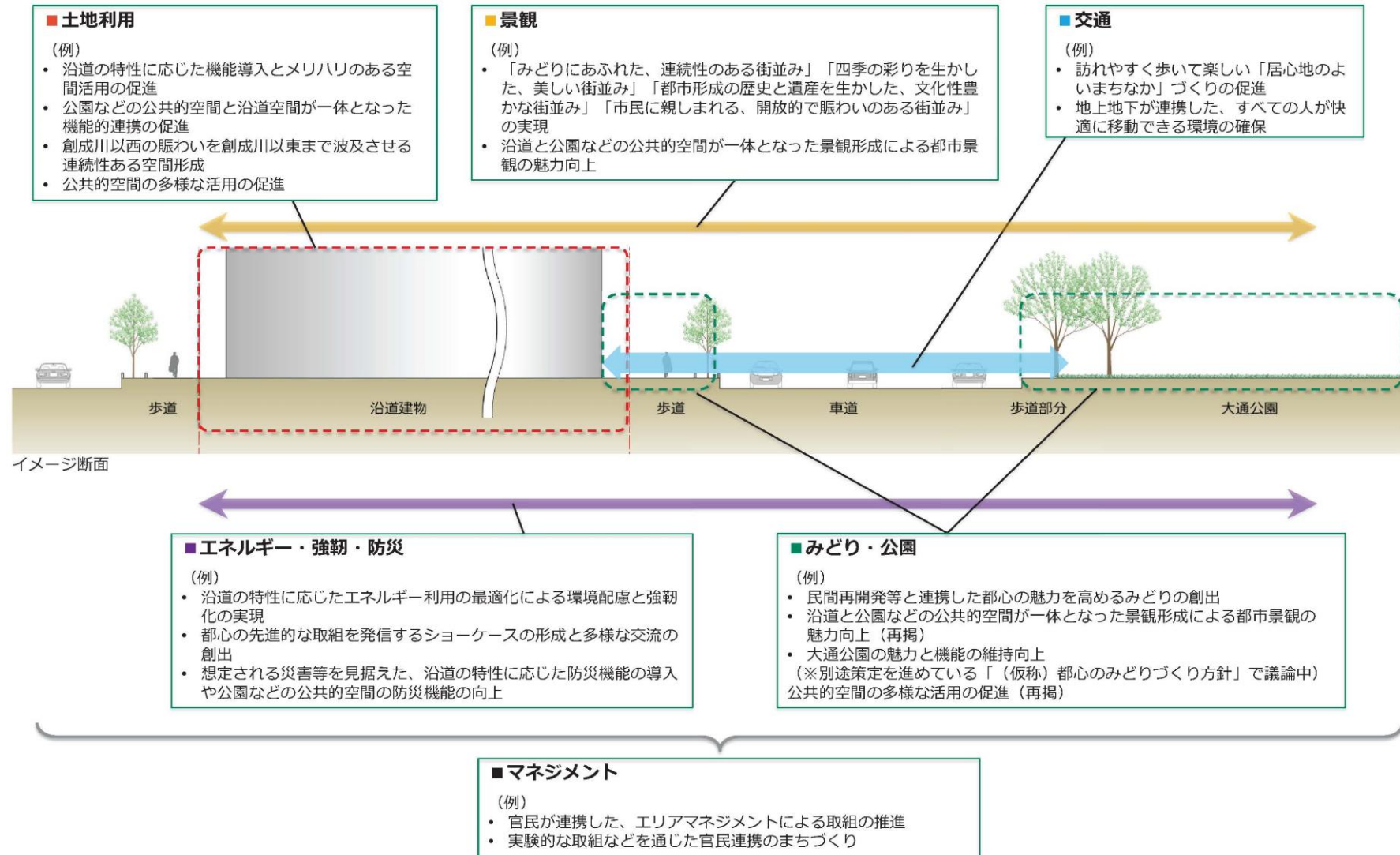
5 取組の進め方

5. 取組の進め方

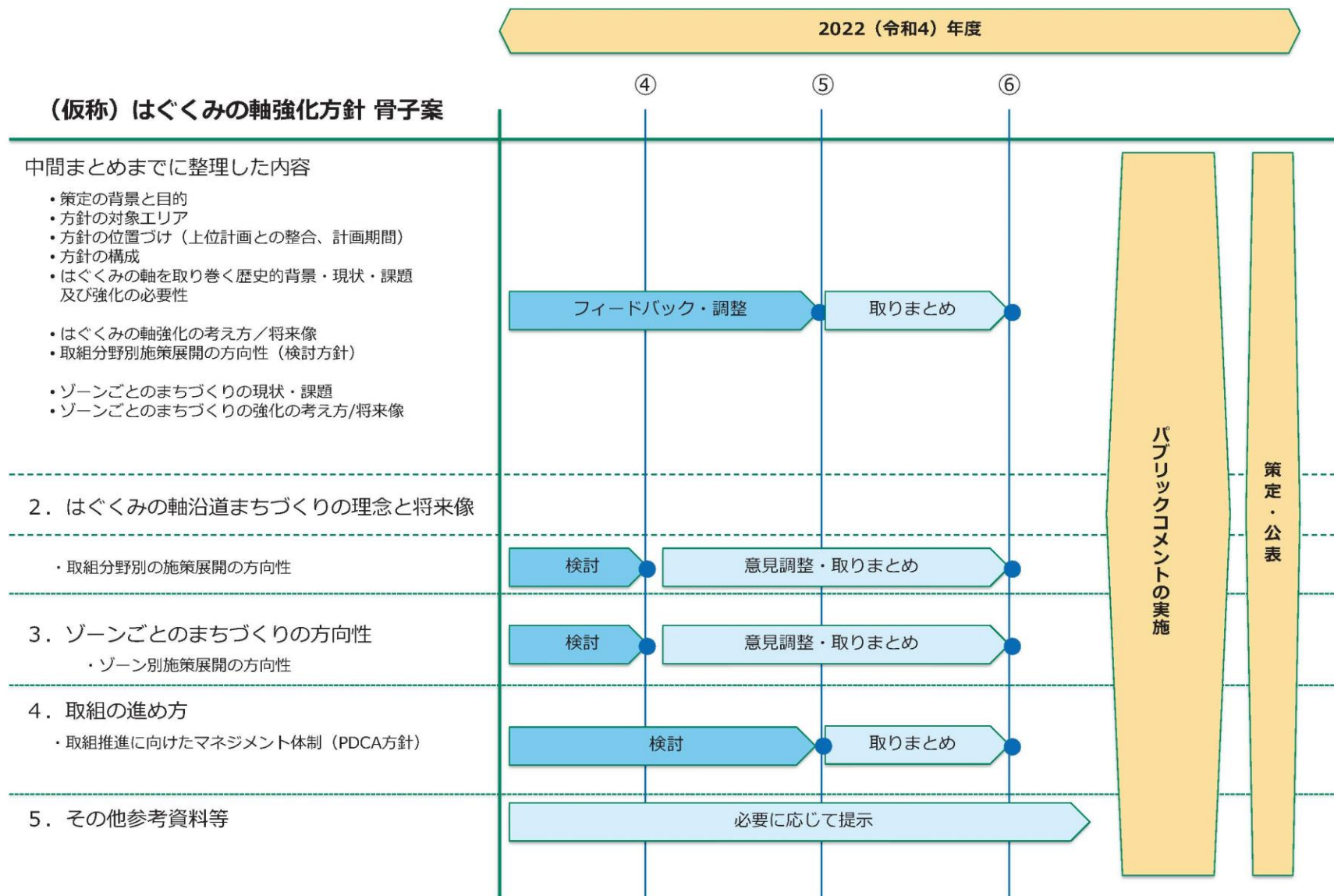
5-1 取組分野別施策展開の方向性

- 対象エリア全体の将来像を検討する上で重要な6つの取組分野（テーマ）ごとに目指すべきまちづくりの方向性を整理した
- 次年度以降、具体的な内容の検討を行う。

6つの取組分野： ■土地利用 ■景観 ■交通 ■エネルギー・強靱・防災 ■みどり・公園 ■マネジメント



5-2 次年度以降の進め方



上記予定は現時点で事務局で想定しているものであり、今後の関係者調整の中で変更となる可能性があります。

